

1 研究主題

各教科の特性を活かし、学力向上を目指した授業づくり
～「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを活用した授業実践～

2 研究主題について

(1) 学習指導要領を意識した授業

令和3年度より完全実施する中学校の新学習指導要領では、各教科の指導に当たって、生徒に育成すべき資質・能力を育むことが求められている。更に、各教科の授業では、教科の見方・考え方を働かせ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。その手立てとして、千葉県教育委員会が推奨する『「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム』を活用する。このプログラムは、「主体的・対話的で深い学び」の視点を加えられていて、学習指導要領に対応した授業改善を行えるようになっている。そのため、昨年度に引き続き授業の取組についても、この実践モデルプログラムを活用し、授業改善を行いたいと考えた。

(2) 各教科の学力向上

令和3年度は統合1年目であるが、各教科の先生方が生徒の実態や学習指導要領に適した授業づくりを実践したため、落ち着いた雰囲気で行うことができている。生徒たちの学力については、各学年の実力テストの結果から分析すると県平均点から大きく差が生じていることが分かる。加え、個人の成績面では、学力の二極化が見られる状況である。このことから、各教科とも授業での学習内容が、定着していないことが予想できる。そのため、学習内容の定着を不十分であることから、学習内容の復習や家庭学習など、各教科の特性に適した方法を考える必要がある。

(3) 教師の授業改善

「授業を受ける姿勢」として、『「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム』を活用し、学習指導要領で求められる資質・能力育成のために、授業改善に取り組む。授業改善としては、4点を重視し教材研究を行う。

- ① 授業展開では、毎時間の授業を通して生徒が何を学ぶのかの「目標」と何を学べたのかの「まとめ」を教師側が意識する。
- ② 学習指導要領で示された「何のために学ぶのか」という各教科の意義を考え、各教科の目標及び内容を把握する。
- ③ 学習指導要領の完全実施に伴い、「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを活用した授業改善を行っていく。授業改善として、「見出す」、「自分で取り組む」、「広げ深める」、「まとめあげる」の学習サイクルを各教科の学習内容の中に取り入れていき、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。
- ④ 各教科の学習内容を定着させるために必要な活動を授業内や家庭学習などに取り入れる工夫を行う。

(4) 生徒の実態

授業を受ける態度

昨年度、全校で「授業を受ける姿勢」を設定し、授業を受けてきた。生徒の振り返りアンケート結果は、全ての項目で4・5の値を選択する生徒が多く、今年度の授業に対して意識をもち取り組むことができたと感じていることが分かる。ただし、一定数の生徒は、1・2を選択していることから、改善が必要と感じていることもうかがえる。教員の回答結果は、全ての項目で3（どちらでもない）を選択している。このことから、授業の中で、「できた」という方向にするための改善点を各教科の先生がもっていることがうかがえる。このことから、「できた」の規準に教師と生徒の間に差が生じていることがわかる。そのため、「できた」の規準を明確にすることで、自己分析ができるのではないかと考えられる。

テスト結果

1月下旬の実力テスト結果から、各学年の成績と県平均を比較すると約30点の差が生じている。実力テストの問題ごとの結果を分析すると、本校生徒は「知識」の面で正答率が高い。しかし、3学年共通して「思考・判断・表現」の問題の正答率が低い。そのことから、「考えて、何かする」という思考を扱う問題への対応を各教科で取り組む必要があることが分かる。

学年	国語	数学	理科	社会	英語	合計
1学年	51.7	40.5	39.0	42.9	45.4	219.5
2学年	55.4	44.0	37.8	46.7	44.4	228.2
3学年	50.0	49.0	48.0	46.0	41.0	234.0

以上のことから、授業の内容やテスト問題（高校入試・実力テスト等）を分析し、各教科で求められている「思考力・判断力・表現力等」に重点を置いた授業展開、問題への取り組み、学習評価等を工夫することで、学力向上を目指したいと考えた。授業づくりは、昨年度研究を行った『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラムを活用した授業づくりを継続し、各教科に適した授業改善を行えるようにする。学力向上については、昨年度の全国学力状況調査、定期テスト、実力テスト、授業での学習状況を各教科で分析し、各教科に適した学力向上に適した指導方法を実践する。

3 研究内容

- ① 「授業を受ける姿勢」意識した授業を行うとともに「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを活用した授業作りを行う。
- ② 「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムの流れに焦点を当て、3観点の評価方法意識した授業づくりをする。
- ③ 授業内では、学習内容を活用し課題を解決できる学習内容を検討する。加え、生徒が主体的に疑問や課題を解決するように、1単位時間及び単元の中で実践モデルプログラムを取り入れた授業展開を各教科で検討する。（各教科部会で、学習課題、学習目標、学習のまとめ、単元の指導計画、指導案、発問の内容等を作成、検討する。）
- ④ 各教科の学習内容を定着させるために、必要な学習方法を検討し、授業内や家庭学習などに取り入れ授業実践する。
- ⑤ 各教科の指導方法や学力向上の取組などを学び、教科部会で授業改善や学習方法を検討してきたことを踏まえて、要請訪問を行い指導を受ける。
- ⑥ 授業改善を行うために、教員間の授業参観を積極的に行う。（特に、教科部会で参加す

る機会をつくる) その際に、授業の様子や生徒の様子等気が付いたことを意見交換し
やすい環境を作る。

⑦ 各教科で授業実践し、要請訪問に臨み、指導を受け、修正等を行う。

<研究の流れ>

月	主題に関する取り組み
4月	<ul style="list-style-type: none"> ① 校内研修の内容の確認をする。 ② 各教科のシラバス・年間指導計画の作成・検討をする。 ③ 学習指導要領完全実施に伴う、3観点の評価方法の検討をする。 ④ 「授業を受ける姿勢」の確認、実施する。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ① 各教科で学習指導要領と学力向上を意識した授業を行う。 ② 指導主事から学力向上の取組の研修を行う。 ③ 昨年度のテスト問題の分析し、必要な学力を検討する。
6月 7月	<ul style="list-style-type: none"> ① 各教科部会を開き、実践プログラムに基づく授業改善の方法を検討する。 ② 各教科の特性を考慮した、学力向上への取組を検討実践する。 ③ 5月の指導主事との研修を基にして、各教科部会で授業内容を検討する。 ④ 第1回定期テストに向けて、テストの作成と評価方法の関連を検討する。 ⑤ 要請訪問の授業者、学習内容等を検討し準備の分担をする。 ⑥ 指導室訪問の準備を行う。
8月 9月 10月	<ul style="list-style-type: none"> ① 7月までの授業の取り組みから、実践プログラムを基にした授業改善や前期評価に向けて、必要な要素が取り入れられているかを教科部会で成果と課題を考える。 ② 指導室訪問で授業を行い。要請訪問に向けての授業の改善案を教科部会で検討する。 ③ 第2回定期テストに向けて、テストの作成と評価方法の関連を検討する。 ④ 前期の評価を適切に行えているかを教科部会で確認を行う。また、評価方法についての成果と課題を検討する。 ⑤ 要請訪問に向けて、教科部会で指導案、学習目標、学習のまとめ、学力向上の取組等を検討する。必要に応じて、各教科で授業参観を行う。
11月 12月	<ul style="list-style-type: none"> ① 各教科で訪問の授業に必要な単元の指導計画、指導案、評価方法を作成する。 ② 各教科で要請訪問を行い、授業・評価方法について研修を行う。 ③ 計画訪問で研修した内容を今後の授業、評価に活かすように教科部会で改善方法を検討、実施する。(11月中に実施) ④ 第3回定期テストに向けて、テストの作成と評価方法の関連を検討する。 ⑤ 「授業を受ける姿勢」の2学期の評価を行い、3学期に向けての課題を検討する。
1月 2月 3月	<ul style="list-style-type: none"> ① 第4回定期テストに向けて、テストの作成と評価方法の関連を検討する。 ② 各教科部会で、1年間の取り組みから授業方法と評価方法の成果と課題を検討する。 ③ 各教科部会で、来年度に向けた各教科の年間指導計画の改善を行う。 ④ 「授業を受ける姿勢」の1年間の評価を行い、来年度に向けての課題を検討する。

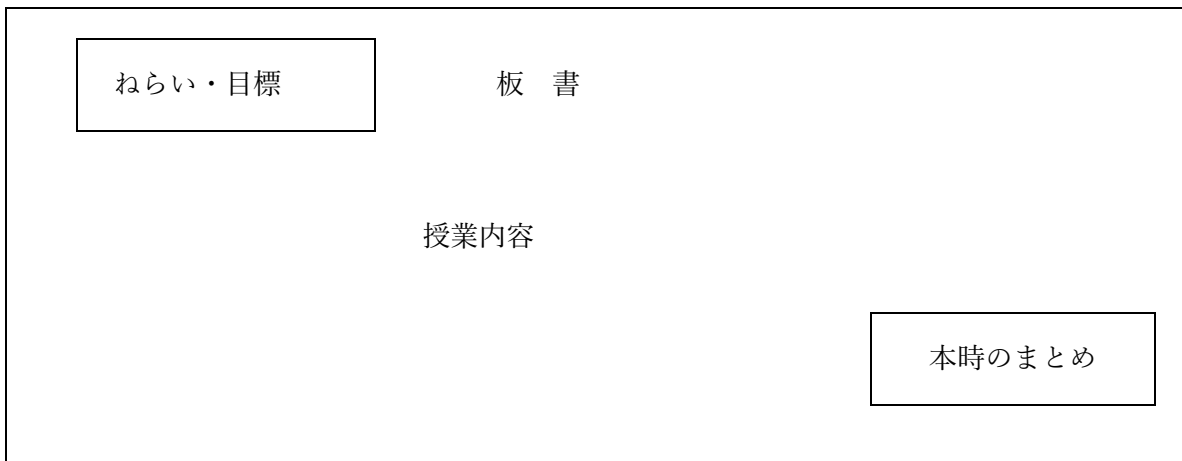
4 その他

- ① 教科部会を積極的に行い、授業改善や新学習指導要領の評価方法について検討を行う。
- ② 各教科によって評価方法が違うため、評価についての研修を行う。
- ③ 「授業を受ける姿勢」を大切にするため、定期的に教師、生徒が自己評価を行う。
- ④ 授業改善として、各教科統一して授業の始めに「目標」を提示し、終わりに「まとめ」を行う。

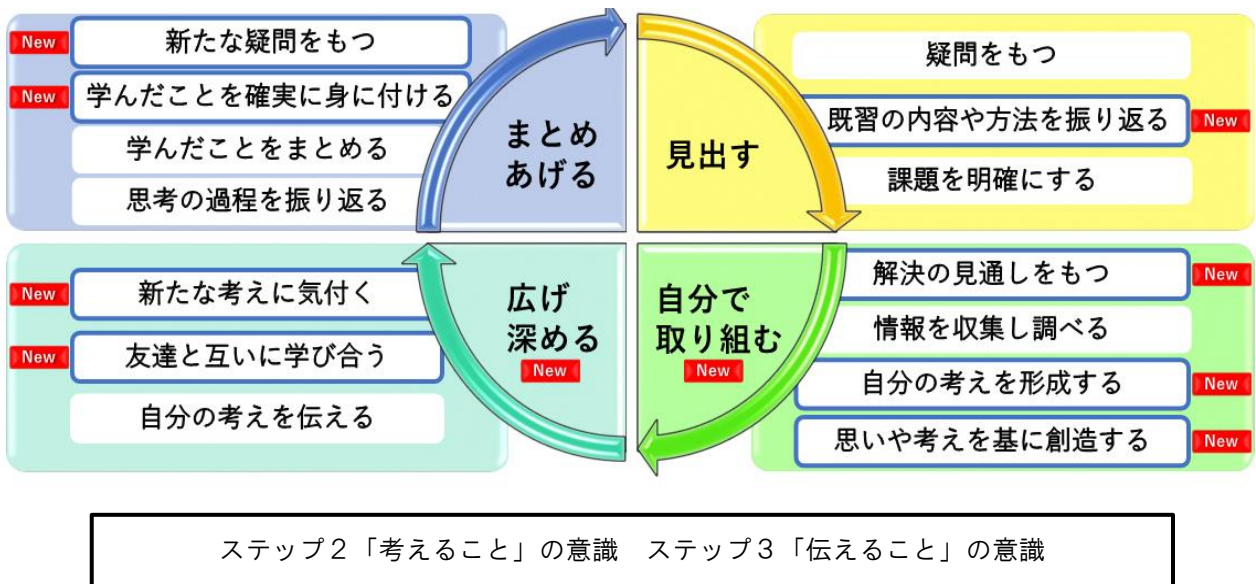
【板書方法】・・・目標とまとめを明確にする。

◎毎時間の授業のねらいや目標と、その時間のまとめを明示する。

(本時のねらいや目標：青線で囲む 本時のまとめ：赤線で囲む)



○「実践モデルプログラムと授業を受ける姿勢ステップ2, 3との関連



5 研修計画

月	研修日	主題に関する研修	その他の研修
4	4.25月	①研究主題の確認，説明。 ・今年度の研究計画について モデルプログラムについて	
5	5.30月	②授業改善と学力向上に向けて ・各教科の取り組み ・授業の計画、学習内容、授業規律、指導法について	・特別研修① 保健関係の研修
6	6.20月	③指導室要請訪問に向けて 展開クラスと指導案準備	・1回目 Q-U 実施（7日）
7		③指導室計画訪問に向けて ・指導案の準備	・Q-U の分析（学年ごと） ・全国学力状況調査テストの分析（3年）（国語・数学・理科）
8		④指導室計画訪問に向けて 要請訪問（授業内容，指導案検討） 指導案チェック	
9	9.26月	⑤2学期の授業について ・計画訪問の振り返り，今度の授業について（各教科部会）	・指導室計画訪問（ 9月7日水 ）
10	10.31月		・特別研修② 教育相談に向けて 生徒のメンタルヘルスについて （講師：カウンセラー・指導主事）
11	11.28月	学校の実態，研修のニーズに応じた研修を企画（今後検討）	・2回目 Q-U 実施
12	12.12月	⑦2学期の振り返り ・計画訪問後の授業を振り返り，3学期の授業について検討	・Q-U の分析（学年ごと）
1	1.30月	⑧校内研修の振り返り ・各教科部会で、授業改善と評価方法について、成果と課題を検討する。	・実力テスト結果と全国結果との比較（全学年）
2		⑨今年度の反省と次年度の計画	

その他に以下の研修を計画します。

- 不祥事根絶について
- 危機管理について